



石巻市
博物館
ISHINOMAKI
CITY MUSEUM

MU M&L
Musashino Art University Museum & Library

Pictorial Book of
Japanese Folk Art and Design
Design Ideas from
the Tools of Daily Life

令和5年

5.27 sat.

8.20 sun.

時間=9時~17時(入館受付は16:30まで)

休館日=月曜日(祝日の場合は翌日休館)

主催=石巻市博物館

監修=武蔵野美術大学教授 加藤幸治

特別協力=武蔵野美術大学 美術館・図書館

協力=武蔵野美術大学共同研究

「美術大学における民俗資料の活用をめぐる基礎的研究」

後援=tbc 東北放送、ミヤギテレビ、khh 東日本放送、

仙台放送、NHK 仙台放送局、河北新報社、

三陸河北新報社(石巻かほく)、石巻日日新聞社、

ラジオ石巻FM76.4、一般社団法人石巻観光協会、

一般社団法人石巻圏観光推進機構

観覧料=一般600円/高校生400円/
小中学生200円

※上記料金で常設展も観覧できます。

※20名以上の団体は2割引

くらしの
道具から
読み解く
造形の発想



第5回企画展
石巻市博物館×
武蔵野美術大学
会場Ⅱ
石巻市博物館
企画展示室
(マルホンまきあーとテラス内)

背負い梯子(トウシンガルイ) 宮崎県

図鑑

デザイン

の

民具

石巻市博物館では、石巻市博物館×武蔵野美術大学 企画展「民具のデザイン図鑑——くらしの道具から読み解く造形の発想——」を開催します。

本展で展示する民俗資料は、武蔵野美術大学美術館・図書館が美術資料のひとつとして所蔵する民具で、その規模は9万点を超えます。民具とは、一般の民衆が日々の暮らしのなかで生み出し、使い続けてきた暮らしの造形資料です。

本展は、民具コレクションと

しては日本屈指の規模を誇る武蔵野美術大学のコレクションと、石巻市博物館所蔵の民俗資料のコレクションによって、民具のデザインの魅力と石巻の民具の特色を知ってもら

うために企画しました。そうした民具に対して、本展では次の3つの視角を設定します。

- ① 日常的な労働や身の丈にあった生活に即した造形（かたちと身体性）
- ② デフォルメされた造形が意味を生み出し、共有する造形（ユーモアと図案）
- ③ 自然に宿る精霊や神仏を表現し、その霊性を暗示する造形（見立てと表象）

暗示する造形（見立てと表象）

石巻市博物館の民俗資料は、東日本大震災で被災して文化財レスキューされ、保存のための安定化処理を終えて、現在は市内収蔵施設において経過観察と整理作業が継続されています。今後は、地域文化を示す貴重な資料として、展示や普及活動のために積極的に活用してまいります。本展をきっかけとして、文化財レスキュー活動によって救われた貴重な民俗資料についても、知ってもらえれば幸いです。

民具

の1

かたちと身体性

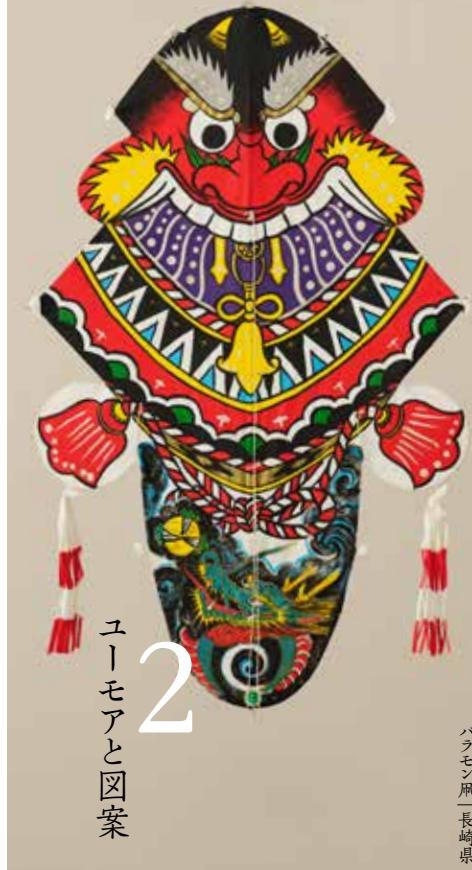


三つ手籠

デザイン

図鑑

5.27 sat.
8.20 sun.



ユーモアと図案

バラモン風 長崎県



令和5年

3

見立てと表象

手炙り「タルマヒバチ（達磨火鉢）」山口県

オープニング記念

学長トーク「美術の豊かさ、デザインの可能性」

日時=2023年5月27日(土)

語り手=榊山祐和(武蔵野美術大学学長)

場所=マルホンまきあーとテラス 企画展示室前ロビー

※申込不要、参加無料、定員50人

武蔵野美術大学学長に、自身の油絵の画業と大学での美術教育、絵本作りと民具などについて、ざっくばらんに語っていただく美術放談。

トーク・セッション

民具とデザインでこんなこともできる！
美術大学から提案するコレクションの可能性

日時=2023年7月1日(土)13:00~15:30

話題提供=加藤幸治(武蔵野美術大学美術館・図書館副館長)

杉浦幸子(同 芸術文化学科教授)

西川 聡(同 工業工業デザイン学科教授)

大石啓明(同 デザイン情報学科准教授)

コメント=神野善治(日本民具学会会長・武蔵野美術大学名誉教授)

場所=マルホンまきあーとテラス 小ホール

協力=武蔵野美術大学共同研究「美術大学における民俗資料の活用をめぐる基礎的研究」

※申込不要、参加無料、定員300人

地域の生活文化を伝える民具は、美術とデザインの制作や教育においても、造形のアイデアやヒント、直感などを与えてくれます。武蔵野美術大学の研究者や作家の実践から、今後の博物館の民俗資料の可能性について考えてみたいと思います。

ワークショップによる展示

民具のその先へ

日時=2023年8月8日(火)~8月20日(日)

企画=鈴木康広(武蔵野美術大学空間演出デザイン学科教授)

加藤幸治(武蔵野美術大学美術館・図書館副館長)

山内優仁(東京大学大学院博士後期課程)

場所=マルホンまきあーとテラス 企画展示室前ロビー

協力=重吉興業株式会社

企画展の関連企画として、武蔵野美術大学の空間演出デザイン学科の学生や卒業生たちが、5月から石巻市内でフィールドワークを行います。そして地域文化と民具について問いを深めながらワークショップの過程で作品制作をし、展示します。

交通アクセス

公共交通をご利用の場合

■仙台駅→石巻駅

[電車] JR仙石東北ライン…仙台駅1~6番ホームから乗車で約60分 | JR仙石線…仙台駅9~10番ホームから乗車で約85分

[高速バス] ミヤコーバス…仙台駅前 西口エデン前21番乗り場から乗車で73分

■石巻駅→マルホンまきあーとテラス

[タクシー] 石巻駅前タクシー乗り場から乗車で約10分

[路線バス] 石巻駅前3番乗り場から石巻専修大学線に乗車で13分 総合運動公園(石巻)下車 徒歩約2分

お車でお越しの場合

■三陸自動車道 石巻女川ICより約5分

駐車場無料(347台)



石巻市博物館第5回企画展 開催要項

1. 展覧会名 石巻市博物館×武蔵野美術大学「民具のデザイン図鑑ーくらしの道具から読み解く造形の発想ー」
2. 主催 石巻市博物館
3. 監修 武蔵野美術大学 教授 加藤幸治
4. 協力 武蔵野美術大学 美術館・図書館、株式会社武蔵野美術大学ソーシャルマネジメント、武蔵野美術大学共同研究「美術大学における民俗資料の活用をめぐる基礎的研究」
5. 後援
tbc 東北放送、ミヤギテレビ、khh 東日本放送、仙台放送、NHK 仙台放送局、河北新報社、三陸河北新報社（石巻かほく）、石巻日日新聞社、ラジオ石巻 FM76.4、一般社団法人石巻観光協会、一般社団法人石巻圏観光推進機構
6. 開催場所 石巻市博物館 企画展示室
7. 開催期間 令和5年5月27日（土）～8月20日（日）84日間（うち開館日72日）
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日休館）
8. 観覧料金 一般600円/高校生400円/小中学生200円
※上記料金で常設展の観覧も可能。
※20名以上の団体は2割引
9. 企画展の主旨
民具とは、一般の民衆が日々暮らしのなかで生み出し、使い続けてきた暮らしの造形資料のことをいいます。本展で展示するのは、武蔵野美術大学美術館・図書館が美術資料のひとつとして所蔵する民具で、民具コレクションとしては日本屈指の規模を誇る資料群です。その規模は9万点を超えます。
本展覧会では、武蔵野美術大学の日本屈指の民具コレクションと、当館が所蔵する民俗資料のコラボレーションによって、民具のデザインの魅力と石巻の民具の特色を紹介します。これらの民具に対し、以下3つの視角を設定します。
①日常的な労働や身の丈にあった生活に即した造形（かたちと身体性）
②デフォルメされた造形が意味を生み出し、共有する造形（ユーモアと図案）
③自然に宿る精霊や神仏を表現し、その靈性を暗示する造形（見立てと表象）
当館が所蔵する民俗資料は、東日本大震災で被災して文化財レスキューの活動において救出され、安定化处理を終え、現在は経過観察・再整理作業を行っています。本展覧会をきっかけとして、文化財レスキュー活動によって救われた民俗資料を市民にお披露目し、地域文化を示す貴重な資料として、展示や普及活動のために積極的な活用を図ります。
10. 主な出品資料
武蔵野美術大学 美術館・図書館民具コレクション 約60点

石巻市博物館民俗資料コレクション 約30点

1.1. 関連企画

トークイベント「民具とデザインでこんなこともできる！美術大学から提案するコレクションの可能性」(仮)

- ・日時：令和5年7月1日(土) 13時00分～15時00分
- ・会場：マルホンまきあーとテラス 小ホール
- ・講師：
 - ・加藤 幸治氏(武蔵野美術大学 教養文化・学芸員課程 教授)
「民具のデザイン図鑑」のあたらしい試み」(仮)
 - ・杉浦 幸子氏(武蔵野美術大学 造形学部 芸術文化学科 教授)
「生活の造形がはぐくむ感性とソーシャル・デザイン」(仮)
 - ・西川 聡氏(武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科 教授)
「土着性と生活から立ち上がる造形」(仮)
 - ・大石 啓明氏(武蔵野美術大学 造形学部 デザイン情報学科 専任講師)
「民具とデジタル表現のさまざまな実験」(仮)